

12月1日（月）より好評チケット発売中！

特別展 日本画アヴァンギャルド KYOTO 1948-1970

これが日本画！？戦後京都で火がついた日本画の反骨的創造運動を紹介！

会期：2026年2月7日（土）～5月6日（水・休）



チケット料金（好評発売中）

一般 1,800円

大学生・高校生 1,300円

中学生以下 無料

ペア券 3,200円

販売先：美術館オンラインチケット、展覧会公式オンラインチケット、ローソンチケット、アソビュー！、チケットぴあ、イープラス、セブンチケット、CNプレイガイド、KKday、近鉄電車、京都新聞トラストビル1階文化センター（絵柄チケットでの販売）、チケットポートなんば（絵柄チケットでの販売）、京都市京セラ美術館ミュージアムショップ（絵柄チケットでの販売、2/6まで）、美術館チケット窓口（2/7から会期終了まで販売）

※前売料金の設定はありません

※団体20名以上は200円引き

※障がい者手帳等をご提示の方は本人及び介護者1名無料（要証明）

※ペア券販売について

・2枚1組販売。1枚ずつでも使用可

・販売先：美術館公式オンラインチケット*、展覧会公式オンラインチケット、ローソンチケット、アソビュー！、チケットぴあ、イープラス、セブンチケット、CNプレイガイド、美術館チケット窓口*（2/7から販売）

・販売期間：12月1日（月）10:00～2026年2月6日（金）23:59（*…5/6まで販売）

関連イベント

講演会「それは京都で沸騰した！—『日本画の抽象』の尖端と限界」

京都日本画の抽象表現について、主な画家や作品などを紹介しつつ解説します。

講師：天野一夫（金沢美術工芸大学客員教授、京都芸術大学大学院教授）

日時：3月14日（土）14:00～15:30

会場：京都市京セラ美術館 講演室（本館地下1階）

定員：60名

料金：無料（予約不要、先着順、要本展観覧券）

講演会「京都・日本画・前衛」

日本画で前衛ってどういうこと？戦後京都で起こった芸術のムーヴメントについて、流れを概観します。

講師：森光彦（京都市京セラ美術館学芸員）

日時：4月12日（日）14:00～15:30

会場：京都市京セラ美術館 講演室（本館地下1階）

定員：60名

料金：無料（予約不要、先着順、要本展観覧券）

解説講座「アヴァンギャルド鑑賞のツボ！」

学芸員がセレクトした展示作品を深掘りしながら、その魅力をトーク形式で紹介します。

講師：陳鶯（京都市京セラ美術館学芸員）、福田里和（同館学芸員）

日時：5月2日（土）14:00～15:00

会場：京都市京セラ美術館地下1階講演室

定員：60名

料金：無料（予約不要、先着順、要本展観覧券）

ワークショップ「つくって、かぶって、へんしん！きみもアーチスト」

パンリアル美術協会やケラ美術協会の作家たちが使用した様々な身近な素材を用いて、自由な発想でマスクをつくります。みんなでかぶって変身しましょう！

講師：ベリーマキコ（日本画家）

日時：3月20日（金・祝）、5月5日（火・祝） 各日 14:00～16:30

会場：京都市京セラ美術館 本館2階 談話室

定員：各回20名

料金：無料（要予約。詳細はウェブサイトをご覧ください。本展観覧券不要）

対象：5歳～小学校6年生（未就学児は保護者同伴可）

〈講師プロフィール〉

ベリーマキコ

1975年京都府亀岡市生まれ。成安造形大学造形美術科日本画クラス卒業後、渡米。1999年よりメトロポリタン美術館などで東洋美術の修復に携わる。2008年に帰国した後、子どもたちの「のびのび」をナビゲートするアート教室『のびなびあーと』と習字教室を主宰。豊かな自然の中で生まれ育った体験を原点としながら、現代日本画家として日常生活の情景や経験をモチーフに作品を発表し続けている。2012年「第4回日本画新展」大賞、2016年「第2回藝文京展」優秀賞、2021年「第8回/第9回東山魁夷記念日経日本画大賞展」入選。



スペシャルトーク＆コンサート「常世 | TOKYO in KYOTO 2026」

ハリウッドドラマ『SHOGUN 将軍』の日本伝統音楽のアレンジャーを務め、ドラマのエミー賞受賞に貢献した作曲家・音楽プロデューサーの石田多朗氏と、本展企画を担当した森光彦（当館学芸員）が、「日本文化を土壤とした革新的表現への挑戦」について、美術と音楽の領域を横断しながら語り合います。また、トークに続き、石田氏率いる「常世」による、雅楽とクラシックを融合した新たな雅楽表現をお楽しみいただけるコンサートを開催します。週末の午後、この特別なプログラムに是非ご参加ください。

〈トーク〉

講師：石田多朗（作曲家・音楽プロデューサー）、森光彦（当館学芸員、本展企画者）

〈コンサート〉

演奏：石田多朗（ピアノ）、中村仁美（箏築・和琴）、中村かほる（楽琵琶）、中村華子（笙）、伊崎善之（龍笛）、田中李々（バイオリン）、七澤達哉（ヴィオラ）、成田七海（チェロ）

日時：2月21日（土）15:00～17:30

会場：京都市京セラ美術館 光の広間

定員：200名

料金：1階椅子席 5,500円 2階立ち見席（学生限定）1,500円（要予約）

詳細はこちら <https://teket.jp/2155/61236>

〈講師・演奏者プロフィール〉

石田多朗

作曲家、音楽監督／株式会社 Drifter 代表取締役

ボストン生まれ。東京藝術大学大学院修了後、2014年に雅楽作曲に挑戦し、坂本龍一に評価される。その後、精神疾患を経験し、栃木県那須町へ移住。一時は音楽から離れるも、再び創作の道へ戻る。2022年、ドラマ『SHOGUN』の総合アレンジャーを担当し、エミー賞、グラミー賞にノミネートされる。現在は雅楽と現代音楽、西洋音楽を融合させた独自の表現で、作曲・演出・プロデュースなど、多面的に活動している。2025年8月、雅楽×クラシックによる世界初のアルバム『常世』をリリースし、各地でコンサートや神社仏閣での奉納演奏を行っている。



展覧会概要

戦後、伝統と革新のはざまで揺れる日本画界において、京都では若き画家たちによる前衛的な試みが始まりました。本展では、1940年代以降に結成された3つの美術団体である創造美術、パンリアル美術協会、ケラ美術協会を中心に、日本画の枠を問い直し、新たな表現を模索した気鋭の若手画家とその軌跡を紹介します。本展を通じて、京都画壇の批評精神と創造性に着目し、現代へと連なる日本画のもうひとつの系譜を紐解きます。本展ではこの戦後京都で生まれた日本画の反骨的創造運動を「日本画アヴァンギャルド」※として総称し紹介します。

※「アヴァンギャルド」という言葉は、フランスにおいて19世紀半ばに文化芸術的な用法として広まり、急進的な芸術家たちを指すようになったものです。その後、過去の伝統を見直し、革新的なものを目指す運動全般を広く示すようになりました。

本展について（担当学芸員 森光彦）

京都は、近代日本画を牽引する文化的中心地のひとつとして発展し、多くの優れた日本画家の輩出の基盤となっていました。

しかし戦後になると、旧体制の反省の風潮のなかで、伝統文化としての日本画への批判の声が高まり、既存の権威や制度への反発からも「日本画を滅ぼすべし」という主張も見られるようになります。日本画に逆風が吹きます。

そうしたなか、京都画壇では日本画の枠組みを見つめ直し、継承／革新を模索して前へ進もうとする「前衛日本画」の運動が1940年代以降に活発化していくこととなりました。戦後を担う気鋭の若手画家たちがその中心となり、同志が集まり意欲的な美術団体が結成されます。京都という日本画制作の中心地にいたからこそ、旧態依然とした日本画を身近に批判することができ、日本画の将来を創造する底力を見せることができたといえます。京都市立絵画専門学校、のちの京都市立美術大学（現在の京都市立芸術大学）もまた、同世代の日本画家たちをつなぐ場となり、前衛運動の基盤となりました。



左) 大野徹嵩 《緋 No.24》 1964年 京都市美術館蔵（通期展示）

右) 向井久万 《浮游》 1950年 泉佐野市立歴史館いづみさの蔵 泉佐野市指定文化財（前期展示）

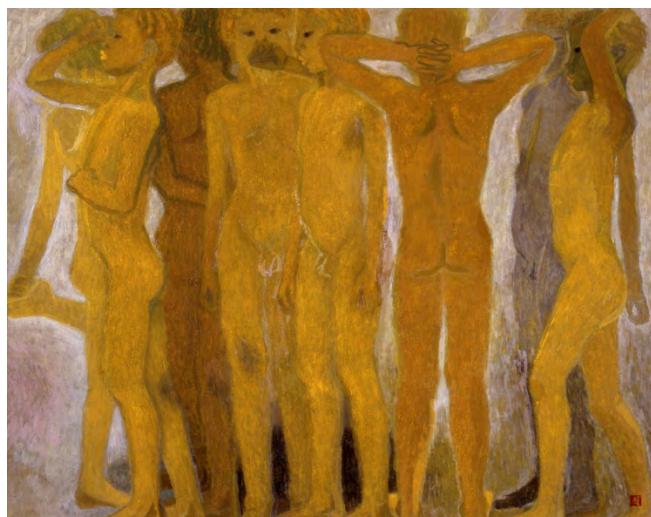
本展で主に紹介する美術団体

創造美術（1948年創立-現在は創画会として存続）

「我等ハ世界性に立脚スル日本絵画ノ創造ヲ期ス」（会の綱領）

世界性に立脚する日本絵画の創造を標榜し、東京と京都の意欲的な日本画家が呼応して結成された在野団体。既存の画壇から脱却し、自由にして純粋なる環境を求めた。

本展で主に展示するのは、上村松箇（うえむら しょうこう）、菊池隆志（きくち たかし）、向井久万（むかい くま）、奥村厚一（おくむら こういち）、秋野不矩（あきの ふく）、沢宏鞠（さわ こうじん）、広田多津（ひろた たづ）ら京都側の創立委員。



秋野不矩《少年群像》1950年 浜松市秋野不矩美術館蔵（前期展示）

パンリアル美術協会（1949創立-2020解散）

「吾々は日本画壇の退嬰的アナクロニズムに対してここに宣言する。眼玉を抉りとれ。四畳半の陰影にかすんだ視覚をすべて、社会の現実を凝視する知性と、意欲に燃えた目を養おう。」（パンリアル宣言）

京都市立絵画（美術）専門学校日本画科の卒業生が中心となって発足した前衛団体。意欲に燃える若手画家たちが、戦後の革新的運動として起こした。「パン」は「汎」を表し、「リアル」は「リアリズム」の意で、社会の現実を反映させながら、抽象表現や先端的な西洋美術を取り入れて日本画の再起を目指した。本展では創立会員である三上誠（みかみ まこと）、山崎隆（やまざき たかし）、星野眞吾（ほしの しんご）、不動茂弥（ふどう しげや）、大野秀隆（おおの ひでたか）、下村良之介（しもむら りょうのすけ）などを展示。



左：三上誠《灸点万華鏡1》1966年 福井県立美術館蔵（後期展示）

右：星野眞吾《黒い犠牲》1966年 名古屋市美術館蔵（後期展示）

ケラ美術協会（1959創立-1964解散）

「20世紀後半は宇宙時代だ。地球上の争いのごときは、宇宙からみれば夫婦げんかにすぎない。ましてや日本の、しかもこの中の画壇の動きに至っては、まるで大海に浮かぶ水泡のようなものだ。われわれはこのような画壇の因襲を強烈な情熱で打破せんとする。」「その反抗を通じて、真にユニークな絵画を創造することだ。われわれは宣言する。」（宣言書）

京都市立美術大学（現・京都市立芸術大学）日本画科出身の若手画家らによって結成された前衛団体。グループ名の「ケラ（Cella）」は、ラテン語で「細胞」や「単位」を意味する言葉で、「細胞が分裂し、拡大するように、この運動があらゆる人たちに賛同される」という願いが込められている。「日本画」の概念にとらわれることなく、より広い視点から「真に創造的な絵画」を生み出すことを目指した。日本画の顔料だけでなく、油絵具やエナメル塗料、ビニール塗料、墨汁、ペンキ、さらには漆、蝋、石膏、布、ゴム、泥、ムシロ、石なども画材とした。本展で主に紹介するのは、創立から活躍した岩田重義（いわた しげよし）、楠田信吾（くすだ しんご）、久保田壹重郎（くぼた いちじゅうろう）、榎健（さかき けん）、野村久之（のむら ひさゆき）など。



左) 榎健《Opus.63-4》1963年（1990年再制作） 京都市美術館蔵（通期展示）

右) 岩田重義《Work-139》1963年 京都国立近代美術館蔵（3/24～5/6展示）

基本情報

タイトル：特別展「日本画アヴァンギャルド KYOTO 1948-1970」

会期：2026年2月7日（土）～5月6日（水・休）

※会期中一部に展示替えあり

前期：2月7日（土）～3月1日（日）

中期：3月3日（火）～4月5日（日）

後期：4月7日（火）～5月6日（水・休）

会場：京都市京セラ美術館 新館 東山キューブ

開館時間：10:00～18:00（入場は17:30まで）

休館日：月曜日（祝日の場合は開館）

料金：一般 1,800円、大学・専門学校生・高校生 1,300円、ペア券 3,200円（一般のみ）、中学生以下無料

※すべて前売価格の設定はありません

京都市京セラ美術館

Kyoto City KYOCERA Museum of Art

Press Release

2025年12月4日

※20名以上の団体料金（一般 1,600円、大学・専門学校生・高校生 1,100円）

※障がい者手帳等ご提示の方はご本人及び介護者1名無料（障がい者手帳等確認できるものをご持参ください）

※学生料金でご入場の方は学生証をご提示ください

チケット発売日：2025年12月1日（月）10:00～

主催：京都市、関西テレビ放送、京都新聞

協賛：株式会社長谷ビル

協力：京都薬品工業株式会社、株式会社藤井大丸

お問い合わせ：京都市京セラ美術館 TEL. 075-771-4334

交通案内：電車/地下鉄東西線「東山駅」から徒歩約8分、京阪電車「三条駅」から徒歩約16分 市バス/「岡崎公園 美術館・平安神宮前」下車すぐ、「岡崎公園 ロームシアター京都・みやこめっせ前」下車すぐ

【本展のプレス問合せ先】京都市京セラ美術館 広報 西谷・川口・野添

E-mail : pr@kyoto-museum.jp 電話 : 075-275-4271